

# 四半期報告書

(第62期第1四半期)

小野薬品工業株式会社

E 0 0 9 4 5

---

# 四半期報告書

---

- 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んであります。

**小野薬品工業株式会社**

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
3 【関係会社の状況】 .....	3
4 【従業員の状況】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【生産、受注及び販売の状況】 .....	4
2 【事業等のリスク】 .....	4
3 【経営上の重要な契約等】 .....	5
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	5
第3 【設備の状況】 .....	9
第4 【提出会社の状況】 .....	10
1 【株式等の状況】 .....	10
2 【株価の推移】 .....	11
3 【役員の状況】 .....	11
第5 【経理の状況】 .....	12
1 【四半期連結財務諸表】 .....	13
2 【その他】 .....	22
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	23

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成21年8月10日

**【四半期会計期間】** 第62期第1四半期(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

**【会社名】** 小野薬品工業株式会社

**【英訳名】** ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 相良 暁

**【本店の所在の場所】** 大阪府中央区道修町二丁目1番5号  
(上記所在の場所は、登記簿上の本店所在地であり、事実上の本社業務は、大阪府中央区久太郎町一丁目8番2号において行っております。)

**【電話番号】** 大阪(06)6263局5670番

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 伊藤 雅樹

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区神田須田町二丁目5番地

**【電話番号】** 東京(03)5296局3711番

**【事務連絡者氏名】** 東京第一支店 業務室長 小竹 交成

**【縦覧に供する場所】** 小野薬品工業株式会社東京事務所  
(東京都千代田区神田須田町二丁目5番地)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社大阪証券取引所  
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

# 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第62期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第61期
会計期間	自 平成20年 4月1日 至 平成20年 6月30日	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 6月30日	自 平成20年 4月1日 至 平成21年 3月31日
売上高 (百万円)	35,659	36,448	136,556
経常利益 (百万円)	13,713	16,999	46,752
四半期(当期)純利益 (百万円)	8,721	11,174	23,766
純資産額 (百万円)	416,675	399,106	390,041
総資産額 (百万円)	463,862	430,802	421,280
1株当たり純資産額 (円)	3,734.01	3,638.26	3,555.54
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	77.61	102.76	216.07
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	89.1	91.8	91.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△170	9,278	24,525
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	33,375	13,179	30,727
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△26,901	△8,798	△49,018
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	53,669	67,162	53,460
従業員数 (名)	2,730	2,732	2,646

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営んでいる事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社における状況

平成21年6月30日現在

従業員数(名)	2,732
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員数であります。

### (2) 提出会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数(名)	2,486
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員数であります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績は、次のとおりであります。

事業部門の名称	金額(百万円)	前年同四半期比(%)
医薬品事業	33,784	3.8

- (注) 1 金額は、売価換算額(消費税等抜き)によっております。  
2 連結会社間の取引は相殺消去しております。  
3 当社グループの事業部門は、「医薬品事業」単一であります。

#### (2) 受注状況

当社グループ(当社及び連結子会社)では、主に販売計画に基づいて生産計画を策定し、これに基づき生産を行っております。受注生産は一部の連結子会社で行っておりますが、受注残高の金額に重要性はないため、記載を省略しております。

#### (3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績は、次のとおりであります。

事業部門の名称	金額(百万円)	前年同四半期比(%)
医薬品事業	36,448	2.2

- (注) 1 連結会社間の取引は相殺消去しております。  
2 当社グループの事業部門は、「医薬品事業」単一であります。  
3 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
アルフレッサ(株)	7,175	20.1	7,133	19.6
(株)メディセオ・パルタック ホールディングス	6,784	19.0	7,011	19.2
(株)スズケン	5,141	14.4	5,029	13.8
東邦薬品(株)	3,683	10.3	3,651	10.0

- 4 消費税等抜きの価額で示しております。

### 2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変動はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

国内医薬品業界におきましては、後発品使用促進策の進展など医療費全体の抑制を目的とした諸施策が一層浸透するなか、国内外の企業間競争が一段と激化するなど、市場環境は厳しさを増しております。

このような状況のもと、当社は独創的な新薬開発を目指し、研究開発体制の一層の強化と主要製品を中心とした学術情報活動の充実を図るとともに、経営全般にわたり効率化に努めました結果、当第1四半期連結会計期間の業績は以下の様になりました。

売上高	364億4千8百万円	前第1四半期連結会計期間比 2.2%増
営業利益	158億2千6百万円	前第1四半期連結会計期間比27.2%増
経常利益	169億9千9百万円	前第1四半期連結会計期間比24.0%増
四半期純利益	111億7千4百万円	前第1四半期連結会計期間比28.1%増

#### ・売上高 前第1四半期連結会計期間比7億8千9百万円（2.2%）増の364億4千8百万円

国内売上高は前第1四半期連結会計期間比3億4千3百万円（1.0%）増の352億6千5百万円でしたが、韓国における現地販売会社へのオノンカプセル及びオパルモン錠の輸出高が一時的に増加したことを主因として海外売上高が前第1四半期連結会計期間比4億4千5百万円（60.5%）増の11億8千2百万円となったことから、当第1四半期連結会計期間の売上高は前第1四半期連結会計期間比7億8千9百万円（2.2%）増の364億4千8百万円となりました。

主要製品の国内売上高ですが、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は、腰部脊柱管狭窄症の適応領域で使用拡大が一層進み、前第1四半期連結会計期間比8億円（9.0%）増の107億円となりました。また、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は、積極的な情報提供活動を広く展開したことにより、前第1四半期連結会計期間比3億円（5.5%）増の65億円となりました。さらに、一昨年6月に発売しました過活動膀胱治療剤「ステーブラ錠」も当該市場での育成が順調に進み10億円となりました。

なお、本年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」の売上は2億円でした。

一方、気管支喘息（小児）治療剤「オノンドライシロップ」は、競合品との競争が厳しさを増すなか、前第1四半期連結会計期間比1億円（5.5%）減の21億円となりました。また、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」は、引き続き潜在市場の開拓活動に取り組みましたが、後発品の影響などもあり、前第1四半期連結会計期間比2億円（5.5%）減の41億円となりました。

#### ・営業利益 前第1四半期連結会計期間比33億8千7百万円（27.2%）増の158億2千6百万円

売上高が前第1四半期連結会計期間比7億8千9百万円（2.2%）増の364億4千8百万円となり、売上原価が前第1四半期連結会計期間比3億4千6百万円（5.9%）減の54億8千3百万円、販売費及び一般管理費が前第1四半期連結会計期間比22億5千1百万円（12.9%）減の151億3千9百万円となりました結果、営業利益は前第1四半期連結会計期間比33億8千7百万円（27.2%）増の158億2千6百万円となりました。

なお、販売費及び一般管理費のうち、研究開発費につきましては、前第1四半期連結会計期間比14億8千3百万円（17.6%）減の69億4千8百万円となりました。これは、昨年、確実性やグローバルな競争力の観点から創薬プロジェクトを見直し、その数を従来の1/3に集約したことや、創薬プロジェクトの一部計画変更で当第1四半期連結会計期間における研究費用が前第1四半期連結会計期間比で約5億円減少したこと、さらには開発早期段階の一部プロジェクトの開始時期が当初予定より3～4カ月遅れる見通しとなったことに伴い、当第1四半期連結会計期間の開発費用が前第1四半期連結会計期間比約5億円減



少したことなどによります。

また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、前第1四半期連結会計期間に開催した「ステープラ錠」の全国規模の学術講演研究会の関連費用計上の反動減や、経費一般のさらなる削減などの影響もあり、前第1四半期連結会計期間比7億6千7百万円(8.6%)減の81億9千1百万円となりました。

・ 経常利益 前第1四半期連結会計期間比32億8千6百万円(24.0%)増の169億9千9百万円

昨年秋以降の急速な景気悪化を受け、受取利息及び受取配当金が、前第1四半期連結会計期間比1億5千2百万円減少したことを主因に営業外収支が前第1四半期連結会計期間比1億1百万円(7.9%)減の11億7千3百万円となりましたが、営業利益の増加に伴い、経常利益は前第1四半期連結会計期間比32億8千6百万円(24.0%)増の169億9千9百万円となりました。

・ 四半期純利益 前第1四半期連結会計期間比24億5千3百万円(28.1%)増の111億7千4百万円

前第1四半期連結会計期間の特別損益は、特別利益として投資有価証券売却益4億4千2百万円を計上しましたが、当第1四半期連結会計期間にはこれに相当する特別利益の計上がなかったことを主因として、利益が4億7千8百万円減少しました。

以上の結果、四半期純利益は前第1四半期連結会計期間比24億5千3百万円(28.1%)増の111億7千4百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

	当第1四半期連結会計期間末	前連結会計年度末	増減
総資産	4,308億2百万円	4,212億8千万円	95億2千2百万円
純資産	3,991億6百万円	3,900億4千1百万円	90億6千5百万円
自己資本比率	91.8%	91.8%	—
1株当たり純資産額	3,638.26円	3,555.54円	82.72円

総資産は、前連結会計年度末に比べ95億2千2百万円増加して、4,308億2百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて5億1百万円増加し1,810億5千7百万円となりました。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて90億2千1百万円増加し2,497億4千5百万円となりました。これは、繰延税金資産が27億6百万円減少した一方で、投資有価証券が118億8千9百万円増加したことなどによります。

負債は、前連結会計年度末に比べ4億5千6百万円増加して、316億9千5百万円となりました。

また、純資産は、前連結会計年度末に比べ90億6千5百万円増加して3,991億6百万円となりました。これは、剰余金の配当金の支払97億8千6百万円がありましたが、一方で、第1四半期純利益の計上111億7千4百万円、その他有価証券評価差額金の増加75億5千8百万円があったことなどによります。

(3) キャッシュ・フローの状況

	当第1四半期 連結会計期間	前第1四半期 連結会計期間	増減
現金及び現金同等物期首残高	534億6千万円	474億3千3百万円	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	92億7千8百万円	△1億7千万円	94億4千9百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	131億7千9百万円	333億7千5百万円	△201億9千6百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△87億9千8百万円	△269億1百万円	181億3百万円
現金及び現金同等物に係る換算差額	4千2百万円	△6千6百万円	1億8百万円
現金及び現金同等物の増減	137億1百万円	62億3千6百万円	—
現金及び現金同等物四半期末残高	671億6千2百万円	536億6千9百万円	—

営業活動により獲得したキャッシュ・フローは、92億7千8百万円の収入（前第1四半期連結会計期間比94億4千9百万円収入の増加）となりました。主な内訳としては、税金等調整前四半期純利益169億6千3百万円などのキャッシュの増加要因がある一方で、法人税等の支払い90億1千2百万円などのキャッシュの減少要因がありました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、131億7千9百万円の収入（前第1四半期連結会計期間比201億9千6百万円収入の減少）となりました。主な内訳としては、有価証券及び投資有価証券の取得による支出があったものの、売却・償還等による収入があり、差し引き141億2千8百万円の収入となったこと、有形固定資産の取得による支出8億2千6百万円がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、87億9千8百万円の支出（前第1四半期連結会計期間比181億3百万円支出の減少）となりました。主な内訳としては、配当金の支払87億9千万円がありました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて137億1百万円増加し、671億6千2百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は69億4千9百万円であります。

なお、開発品の進捗状況については以下の通りです。

開発品の進捗状況（平成21年8月4日現在）

(i) 国内開発品状況

(a) 申請中開発品

商品名／商品名候補 ／開発コード	区分	予定効能／薬理作用	剤型	
イメンドカプセル (ON0-7436)/MK-0869	新有効成分	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 ／NK 1拮抗作用	カプセル	導入 (メルク社)
グラクティブ錠 (ON0-5435)/MK-0431	新有効成分	2型糖尿病／D P P -IV阻害作用	錠	共同 (万有製薬)

## (b) 臨床試験中開発品

商品名／商品名候補 ／開発コード	区分	予定効能／薬理作用	フェーズ	剤型	
リバスタッチ※ <sup>1</sup> (ONO-2540)/ENA713D	新有効成分	アルツハイマー型認知症／コリンエステラーゼ阻害作用	Ⅲ	経皮 吸収剤	共同 (ノバルティスファーマ)
ONO-7847※ <sup>2</sup> /MK-0517	新有効成分	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 ／NK1拮抗作用	Ⅲ	注射	導入 (メルク社)
グラクティブ錠 (ONO-5435)/MK-0431	効能追加	2型糖尿病 (α-グルコシダーゼ阻 害剤との併用療法) ／DPP-IV阻 害作用 2型糖尿病 (インスリン製剤との併 用療法) ／DPP-IV阻害作用	Ⅲ	錠	共同 (万有製薬)
ONO-5920 /YM529	用法・用量変更 (月1回製剤)	骨粗鬆症／骨吸収抑制作用 (ビスホ スフォネート系製剤)	Ⅲ	錠	共同 (アステラス製薬)
注射用オノアクト※ <sup>3</sup>	効能追加	マルチスライスCTによる冠動脈造 影能の改善／β <sub>1</sub> 遮断作用(ウルトラ ショートアクティング)	Ⅲ	注射	自社
イメンドカプセル※ <sup>4</sup> (ONO-7436)/MK-0869	小児での 効能追加	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 ／NK1拮抗作用	Ⅲ	カプセル	導入 (メルク社)
注射用エラスポール	効能追加	市中肺炎に伴う急性呼吸不全/好中 球エラスターゼ阻害作用	Ⅱ	注射	自社
ONO-7643 /RC-1291	新有効成分	癌性悪液質／グレリン様作用	I	錠	導入 (ヘルシン社)
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症／カテプシンK阻害作用	I	錠	自社
ONO-8539	新有効成分	過活動膀胱／EP1拮抗作用	I	錠	自社
ONO-4641	新有効成分	多発性硬化症／S1P受容体作動作 用	I	錠	自社
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	癌／完全ヒト型抗PD-1抗体	I	注射	自社
ONO-3849	新有効成分	麻薬性鎮痛薬の使用に伴う難治性便 秘／μオピオイド受容体拮抗作用	I	注射	導入 (プロジェニックス社)

※<sup>1</sup>：アルツハイマー型認知症治療剤ONO-2540の商品名候補はリバスタッチになりました。

※<sup>2</sup>：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐の治療剤ONO-7847はフェーズⅢ試験を開始しました。

なお、本剤は申請中のイメンドカプセル (ONO-7436) を注射剤に改変したものです。

※<sup>3</sup>：注射用オノアクトはマルチスライスCTによる冠動脈造影能の改善での効能追加を目的としたフェーズⅢ試験を開始しました。

※<sup>4</sup>：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐の治療剤イメンドカプセル (ONO-7436) は小児での効能追加を目的としたフェーズⅢ試験を開始しました。

## (ii) 国外開発品状況

## 臨床試験中開発品

商品名／商品名候補 ／開発コード	区分	予定効能／薬理作用	フェーズ	剤型	
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症／カテプシンK阻害作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-8539	新有効成分	過活動膀胱／EP1拮抗作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	癌／完全ヒト型抗PD-1抗体	I	注射	共同 (メダレックス社)
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	C型肝炎／完全ヒト型抗PD-1抗 体	I	注射	共同 (メダレックス社)
ONO-4641	新有効成分	多発性硬化症／S1P受容体作動作 用	I	錠	自社
ONO-7746※ <sup>5</sup>	新有効成分	血小板減少症／トロンボポエチン受 容体作動作用	I	カプセル	導入 (日産化学)

※<sup>5</sup>：血小板減少症治療剤ONO-7746は米国でフェーズⅠ試験を開始しました。

### 第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

前連結会計年度末において、重要な設備の新設、除却等の計画はありませんでした。また、当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成21年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	120,847,500	120,847,500	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株
計	120,847,500	120,847,500		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年6月30日		120,847,500		17,358		17,002

#### (5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成21年3月31日の株主名簿により記載しております。

### 【発行済株式】

平成21年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 12,098,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 108,614,100	1,086,141	
単元未満株式	普通株式 134,600		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	120,847,500		
総株主の議決権		1,086,141	

(注) 「議決権の数」欄には、名義人以外から株券喪失登録のある株式に係る議決権の数5個が含まれております。

### 【自己株式等】

平成21年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 小野薬品工業株式会社	大阪市中央区道修町 二丁目1番5号	12,098,800		12,098,800	10.01
計		12,098,800		12,098,800	10.01

(注) 当第1四半期会計期間末(平成21年6月30日)の自己株式は、12,099,700株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合10.01%)となっております。

## 2 【株価の推移】

### 【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月
最高(円)	4,380	4,380	4,400
最低(円)	4,030	4,000	4,120

(注) 最高・最低株価は大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表については、監査法人トーマツによる四半期レビューを受け、当第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

なお、従来から当社が監査証明を受けている監査法人トーマツは、監査法人の種類の変更により、平成21年7月1日をもって、有限責任監査法人トーマツとなりました。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,791	14,102
受取手形及び売掛金	41,530	39,480
有価証券	100,079	102,908
商品及び製品	5,262	5,439
仕掛品	1,022	1,194
原材料及び貯蔵品	3,579	3,424
その他	14,799	14,016
貸倒引当金	8	9
流動資産合計	181,057	180,556
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	63,789	63,748
減価償却累計額	39,865	39,413
建物及び構築物(純額)	23,923	24,334
機械装置及び運搬具	14,649	14,612
減価償却累計額	12,863	12,751
機械装置及び運搬具(純額)	1,786	1,861
土地	22,539	22,539
建設仮勘定	1,014	745
その他	10,206	10,183
減価償却累計額	9,204	9,124
その他(純額)	1,001	1,059
有形固定資産合計	50,265	50,540
無形固定資産		
その他	1,116	1,032
無形固定資産合計	1,116	1,032
投資その他の資産		
投資有価証券	190,223	178,333
その他	8,142	10,818
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	198,363	189,150
固定資産合計	249,745	240,723
資産合計	430,802	421,280



(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,406	3,423
短期借入金	1	1
未払法人税等	5,775	9,130
引当金	3,151	5,110
その他	13,070	7,794
流動負債合計	25,404	25,459
固定負債		
長期借入金	15	15
退職給付引当金	3,135	2,157
その他の引当金	81	82
その他	3,058	3,523
固定負債合計	6,291	5,779
負債合計	31,695	31,239
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	423,952	422,565
自己株式	63,429	63,425
株主資本合計	394,961	393,578
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9,729	2,170
土地再評価差額金	8,922	8,922
為替換算調整勘定	155	203
評価・換算差額等合計	651	6,956
少数株主持分	3,493	3,419
純資産合計	399,106	390,041
負債純資産合計	430,802	421,280

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	※2 35,659	※2 36,448
売上原価	※2 5,829	※2 5,483
売上総利益	29,830	30,965
販売費及び一般管理費		
研究開発費	8,432	6,948
その他	※1 8,958	※1 8,191
販売費及び一般管理費合計	17,390	15,139
営業利益	12,439	15,826
営業外収益		
受取利息	433	373
受取配当金	953	861
その他	36	33
営業外収益合計	1,424	1,268
営業外費用		
寄付金	65	83
その他	84	11
営業外費用合計	150	95
経常利益	13,713	16,999
特別利益		
投資有価証券売却益	442	—
特別利益合計	442	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	36
特別損失合計	—	36
税金等調整前四半期純利益	14,155	16,963
法人税等	※3 5,341	※3 5,714
少数株主利益	93	74
四半期純利益	8,721	11,174

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	14,155	16,963
減価償却費	723	685
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	△1
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	890	977
受取利息及び受取配当金	△1,387	△1,234
投資有価証券売却損益 (△は益)	△442	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,346	△2,050
たな卸資産の増減額 (△は増加)	382	194
仕入債務の増減額 (△は減少)	273	91
その他	1,924	1,369
小計	12,172	16,995
利息及び配当金の受取額	1,426	1,294
法人税等の支払額	△13,769	△9,012
営業活動によるキャッシュ・フロー	△170	9,278
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△6,974	△9,344
有価証券の売却及び償還による収入	51,898	31,850
有形固定資産の取得による支出	△354	△826
投資有価証券の取得による支出	△11,612	△8,379
投資有価証券の売却及び償還による収入	623	2
その他	△204	△122
投資活動によるキャッシュ・フロー	33,375	13,179
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△15,600	△3
配当金の支払額	△11,296	△8,790
少数株主への配当金の支払額	△5	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△26,901	△8,798
現金及び現金同等物に係る換算差額	△66	42
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,236	13,701
現金及び現金同等物の期首残高	47,433	53,460
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 53,669	※ 67,162

**【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】**

該当事項はありません。

**【簡便な会計処理】**

当第1四半期連結会計期間  
(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

(繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

繰延税金資産の回収可能性の判定に関して、前連結会計年度以降に経営環境等に著しい変化がなく、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっており、前連結会計年度以降に経営環境等に著しい変化があるか、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められた場合には、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

**【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】**

当第1四半期連結会計期間  
(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

**【追加情報】**

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)  
該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)												
<p>1 販売費及び一般管理費のその他のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>給料</td> <td>1,994百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>1,037百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td>626百万円</td> </tr> </table> <p>2 売上高及び売上原価には、原薬中間体取引高1,051百万円が同額含まれております。</p> <p>3 当第1四半期連結累計期間における税金費用については、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理により計算しているため、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。</p>	給料	1,994百万円	賞与引当金繰入額	1,037百万円	退職給付引当金繰入額	626百万円	<p>1 販売費及び一般管理費のその他のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>給料</td> <td>1,947百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>1,055百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td>662百万円</td> </tr> </table> <p>2 売上高及び売上原価には、原薬中間体取引高777百万円が同額含まれております。</p> <p>3 同左</p>	給料	1,947百万円	賞与引当金繰入額	1,055百万円	退職給付引当金繰入額	662百万円
給料	1,994百万円												
賞与引当金繰入額	1,037百万円												
退職給付引当金繰入額	626百万円												
給料	1,947百万円												
賞与引当金繰入額	1,055百万円												
退職給付引当金繰入額	662百万円												

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)																								
現金及び現金同等物の当第1四半期連結累計期間末残高と当第1四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の当第1四半期連結累計期間末残高と当第1四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係																								
<table> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>30,340百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td>83,271百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>113,611百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td>700百万円</td> </tr> <tr> <td>償還期間が3か月を超える債券等</td> <td>59,241百万円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>53,669百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	30,340百万円	有価証券勘定	83,271百万円	計	113,611百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	700百万円	償還期間が3か月を超える債券等	59,241百万円	現金及び現金同等物	53,669百万円	<table> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>14,791百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td>100,079百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>114,871百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td>750百万円</td> </tr> <tr> <td>償還期間が3か月を超える債券等</td> <td>46,958百万円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>67,162百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	14,791百万円	有価証券勘定	100,079百万円	計	114,871百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	750百万円	償還期間が3か月を超える債券等	46,958百万円	現金及び現金同等物	67,162百万円
現金及び預金勘定	30,340百万円																								
有価証券勘定	83,271百万円																								
計	113,611百万円																								
預入期間が3か月を超える定期預金	700百万円																								
償還期間が3か月を超える債券等	59,241百万円																								
現金及び現金同等物	53,669百万円																								
現金及び預金勘定	14,791百万円																								
有価証券勘定	100,079百万円																								
計	114,871百万円																								
預入期間が3か月を超える定期預金	750百万円																								
償還期間が3か月を超える債券等	46,958百万円																								
現金及び現金同等物	67,162百万円																								

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	120,847,500

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	12,110,652

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	9,786	90	平成21年3月31日	平成21年6月29日

(2) 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

4 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

セグメントの区分が「医薬品事業」単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	121	571	44	736
II 連結売上高(百万円)				35,659
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	0.4	1.6	0.1	2.1

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州……イタリア、スペイン

(2) アジア……韓国、台湾

(3) その他の地域……アメリカ、メキシコ

3 海外売上高は、当社の輸出高(特許権等使用料収入を含む)であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	195	957	29	1,182
II 連結売上高(百万円)				36,448
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	0.5	2.6	0.1	3.2

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州……イタリア、ドイツ、オランダ等

(2) アジア……韓国、台湾

(3) その他の地域……メキシコ等

3 海外売上高は、当社の輸出高(特許権等使用料収入を含む)であります。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
1株当たり純資産額 3,638.26円	1株当たり純資産額 3,555.54円

2 1株当たり四半期純利益金額等

前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額 77.61円	1株当たり四半期純利益金額 102.76円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年6月30日)
四半期純利益(百万円)	8,721	11,174
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	8,721	11,174
普通株式の期中平均株式数(千株)	112,369	108,737

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年 8 月 8 日

小野薬品工業株式会社

取締役会 御中

## 監査法人 トーマツ

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 土 田 秋 雄 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 東 誠 一 郎 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 丸 地 肖 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小野薬品工業株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小野薬品工業株式会社及び連結子会社の平成20年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 8 月 3 日

小野薬品工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 東 誠一郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 丸 地 肖 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小野薬品工業株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小野薬品工業株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成21年8月10日

**【会社名】** 小野薬品工業株式会社

**【英訳名】** ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 相 良 暁

**【最高財務責任者の役職氏名】** 該当なし

**【本店の所在の場所】** 大阪市中央区道修町二丁目1番5号  
(上記所在の場所は、登記簿上の本店所在地であり、事実上の本社業務は、大阪市中央区久太郎町一丁目8番2号において行っております。)

**【縦覧に供する場所】** 小野薬品工業株式会社東京事務所  
(東京都千代田区神田須田町二丁目5番地)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 相良 暁は、当社の第62期第1四半期(自 平成21年4月1日 至 平成 21年6月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。